

《令和五年度 暗唱④》

『徒然草』より

つれづれなるままに

よしだ けんこう
吉田兼好

つれづれなるままに、

日くらし 硯におかひて、

心にうつりゆく よしなし事を、

そこはかたなく 書きつくれば、

あやしうこそ

ものぐるほしけれ。

《現代語訳》

やることもなく手持ち無沙汰に、一日中 硯に向かって、心に浮か
んでは消えるとりとめもないことを、あてもなく書いていると、(思ったより

熱中して)異常なほど狂おしい気持ちになるものだ